

指導例 9

- 1 主題名 いのちかがやいて
- 2 資料名 「口を使い、心でかいた絵と言葉」
- 3 ねらい 生命の大切さについて、日頃、無関心でいる自分に気付き、自分自身の生き方を見つめ、主人公の感動や心情を多面的に追究し、自他の生命を尊重して力強く生きていこうとする気持ちを高める。(3-(2)生命尊重)

4 主題について

(1) 価値について

子供たちが生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重して力強く生き抜いていこうとする生き方について自覚を深めていくために、限りある人生を生き抜き、代替不可能な生命の重さを実感させることが大切である。また、人間が人間としてよりよく生きるには、自分とかけがえのない生命を持った他者を大切にするという人間尊重の精神に立つことが必要である。さまざまな困難に立ち向かい、それらとたたかいながら一生懸命生きている人の人生などから、力強く生きる姿のすばらしさに気付かせ、さらには、生きがいを持って生命を輝かせながら生き抜いたことが次の世代へと息づいていくことにも気付かせていくことが大切である。

(2) 児童の実態

小学校高学年期の子供たちは、自分の命はひとつしかないものであることや、大事にしていくことの大切さを理解し、病気の予防や体力づくりなどを通して自分の健康安全に努めていこうとしている。しかし、子供たちの多くは、生きていることを当たり前のこととしてとらえ、生命について深く考えることはあまりない。また、生命が大切であることを知的に理解できても、それを自分の人間としての生き方において生きて働かせていない。このような子供たちに、生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を養うことは意義深いことである。

(3) 資料について

本資料は、人一倍のスポーツマンであった北迫さんが、不慮の事故に遭い、首から下の自由を失い、その苦悩とそれを乗り越え、現在に至るまでの心境を自ら書いたものである。事故により、今までのような生活のできなくなった主人公は、看病してくれる家族を見て、幾度も自分を責める。そして、自分さえいなければという思いになるが、両親の自分に対する思い、家族の愛、周りの人たちの思いやりを実感し、今を大切に精一杯生きている。生命の尊さを気づいた子供が、こうした生き方に触れることで、生命を輝かせながら一生懸命生きることのすばらしさを知り、自らの生き方の問題として生命を尊重することの大切さを考えることができる。また、こうした人々を支える人々の愛情に気づくことで、他者の生命を尊重する事の大切さについても再考させるのに適した資料である。

(4) 参考文献

北迫正治詩画集 はな うた 花と詩と (南日本新聞社)

5 展開例

過程	主な学習活動（・子供の意識）	指導上の留意点
導 入	<p>1 生命について考えていることを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>命を大切にするというのはどういうことだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一つしかないもの ・ 親からせっかくもらったもの ・ かけがえのないもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実態調査などを手がかりに意図的に指名する。 ○ 生命について、さまざまな角度から考えさせる。
展 開	<p>2 資料「口を使い、心で描いた絵と言葉」を読んで、生命尊重にかかわる生き方について話し合う。</p> <p>(1) 事故にあった頃の主人公はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一生歩けない ・ くやしい ・ 生きていても… ・ どうでもいい ・ あきらめ <p>(2) 主人公の両親や周りの人はどんな気持ちで看病をしたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩けるようになってほしい ・ なにが何でも生きてほしい <p>☆(3) 死を考えた主人公はどんなことを考えていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分さえいなければ ・ 生きていても… ・ これ以上周りの人に迷惑をかけられない <p>(4) 口にくわえた筆を使い絵を描くようになったのはどんな気持ちからか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お礼を書きたい ・ 感謝 ・ 一生懸命生きたい <p>3 自他の命を大切にしていける生き方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を共感的に読み取らせるために、資料について補説したり、挿絵等を活用したりする。 ○ 一読後の直観した見方・考え方・感じ方を自由に発表させる。 ○ 資料の導入として、口を使って書き始めた頃の文字を提示（絵，TP）して誰が書いた文字かなどを聞く。 ○ 主人公の気持ちに自我関与させるために吹き出しに北迫さんの心情を書かせる。 ○ 自分だったらどうするかを考えることで自分と主人公の生き方への認識への違いに焦点を当てる。 ○ グループでの話し合いなどもさせ、命のかけがえのなさについて、それぞれの考えに触れさせる。 ○ 自分の考えをまとめさせ、今までの自分を振り返りながら自分自身をよりいっそう見つめさせる。
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の樹形図を黒板に貼り、命の連続性に気付かせる。 ○ 副資料として、詩などを使ってもよい。 ○ 感動の余韻を残し実践意欲を高める。